

平成 28 年度 自己評価結果公表シート

大阪東邦幼稚園

1、本園の教育目標

幼児教育を人間形成・すべての教育における土台として認識し、

- ・健康で明るく、友だちと仲良く遊べる子ども
- ・色々なことに目を向け、よく考え、最後までやりぬく子ども
- ・素直で、生き生きとした心豊かな子ども
- ・ルールを守り、礼儀作法を身につけた子ども
- ・他を思いやる優しい心を持った子ども

を育成する

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

本園が目指す教育目標を教職員が再確認し、内容の充実改善に主体的に取り組み、計画の振り返りによって、教育・保育の質を高める。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
指導計画の作成・実施に関して、教職員の共通理解を図る	幼稚園教育要領、園の教育目標、子どもの実態・興味・関心を踏まえ、総合的に計画を立てている。 適宜、必要とあれば見直し、その実践を保育の中で行うことが出来た。
教職員全員が互いの保育内容を確認しあって、連携を充実させ、子どもについての情報交換を活発に行う	1 日の終わりに保育者自らが保育を客観的に振り返るだけでなく、個々の子どもについて情報交換を行い、担任だけでなく教職員全員が皆で育てていくという共通理解を持っている。
食育についての取り組み	よい子の観察菜園での野菜づくりに参加することで、命の大切さや感謝の心を学ぶことができた。また、栽培・収穫を通して、食に対する関心を子どもたちがより持つようになった。
保育環境の整備	安全確保は当然のことながら、子どもの発達を促進するような環境を心がけている。 また、照明設備をはじめとする環境整備も必要に応じて適宜改善することができている。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己評価という客観的な振り返りを通して、教職員が取り組むべき課題について共通の理解を得ることができた。また、それらの取り組み状況の話し合いを通して、教育目標の具現化に役立てることができた。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
情報発信の充実	園だより・クラスだよりを通して、保育内容や子どもの姿を伝えているが、ホームページや掲示板も有効利用し、育児支援という観点からの情報発信をさらに進める。
「子ども・子育て支援新制度」等について	平成27年4月から施行されている「子ども・子育て支援新制度」だけでなく、子どもを取り巻く動きについて、国や地方自治体と連携をとり、正確な情報を収集する。そして、建学の精神に則った保育・教育をどう提供することができるのかを検討する。

6、学校関係者の評価

幼児の実態と周囲の状況に配慮した保育の実践に日々努力している。
保護者との信頼関係がより確かなものとなるよう今後も幼稚園の教育をより広く理解してもらい、努力して欲しい。

7、財務状況

公認会計士の指導監督によって行われている会計監査において、健全経営により、財務状況は適正であると評価されている。